

年刊 銀鈴ポエム通信



アート&ブックス銀の鈴社

<https://www.ginsuzu.com>

第 39 号

2020年11月22日

目 次

学校の授業で活用されている「子どものための少年詩集」

報告レポート	2~5
詩人たちの授業参加報告	6~8
第24回三越左千夫少年詩賞受賞『はてなとびっくり』大楠 翠 詩集 ...	9
編集委員選考報告	10
子どもたちの心に残ったポエム——私の好きな3作品	11
編集委員選考のことば	12~17
小・中学生の感想より	18~28
作品募集のご案内	29
小学校国語教科書などへのポエム採用紹介	30, 31
銀の鈴社のご案内	32



共感できた。

●筑波大学附属聴覚特別支援学校
そんなあなたに（あべこうぞう）
秋の風（太田甲子太郎）

情熱（黒田勲子）

「そんなあなたに」自分が大切にしている人への思いを読んで、私も自分の大切な家族や友人に對しての思いがこの詩と同じで、不思議とつながっていたので好きな詩として選びました。

「秋の風」私は四季の中で秋が好きなので、秋の感触や暮らしに惹かれました。

「情熱」自分の心の中にある情熱に作品の中で共感できる点が多くあり、気に入りました。

●筑波大学附属聴覚特別支援学校
生きる（石谷陽子）

情熱（黒田勲子）

空（とこ）

私は、「生きる」、「情熱」、「空」の作品が好きです。理由は、自分が長生きしたい気持ちがあるので、人生を大切に生きたいと思うからです。そして、未来のことを考える色々なことがあると思います。が、未来に向けてこれからの人生

●筑波大学附属聴覚特別支援学校
生きる（石谷陽子）

山と雲との対話（柏木隆雄）

月（そよけいこ）

「生きる」今、新型コロナウイルスで外出を自粛したり、オンライン授業となったりして、大変な状態である。その中で、経済や生活がさらに厳しくなっている。人類が生きていく手段を見つけ、各国が協力していかなければならないとこの詩を読んで、このようなことを考えさせられた。

「山と雲との対話」富山という田舎で育った私にとっては、山と雲は時々かくれんぼをしているように見える。だから、山の上へ行ってその様子を見てみたい。

「月」幼少期から、月や星を望遠鏡で見てきた。月のクレーターはでこぼこしており、うさぎのもちつきなどさまざまな形を楽しんだ。今でも、月を見ると幸せになれるし、心強くなるのでこの詩に

を輝かせていきたいと思うからです。最後に、青空が好きなので、いつも空を見えています。これからもずっと青空が続いてほしいと思うからです。三つの作品を読んで、とても感動しました。これから、「生きる」、「情熱」、「空」の作品を参考にして、自分で将来のことを考えながら生きていきたいと思っています。自分の将来に期待しています。

●筑波大学附属聴覚特別支援学校
透明人間（さかもとひでき）

偶然（常田久恵）

とげとげ（南郷芳明）

「透明人間」——いつも見守ってくれる透明人間とほとんどの物語で、いつでもどこでも透明人間がそばにいてくれることでほくを強くしている。ほくにとつて透明人間はすごく大切な人なんだと伝わってきて、良いと感じた。

「偶然」——生きるのも死ぬのもかけがえのない偶然という文から強いメッセージが伝わってきた。突然の事故や病気が自分の人生にいつか来るかもしれないという気持ちになった。言葉の影響力が

凄かった。

「とげとげ」——詩を読んで、自分が姉妹や友だちとケンカをした時の気持ち思い出した。相手に悪い所があるけれど、自分もそういう所があると自覚し、モヤモヤした気持ちで過ごしたので凄く共感した。

●筑波大学附属聴覚特別支援学校
山と雲との対話（柏木隆雄）

情熱（黒田勲子）

満月（三好清子）

「山と雲との対話」を読んだ時、山は動かないけれど、「私の故郷を見守ってきた」というところが温かい感じがしました。山と雲との関係性や話の内容が気になり、私も何の話か聞いてみたいと思いました。この詩の情景が思い浮かび、小さい頃に自分の祖父母の家で遊んだことを思い出して懐かしいと感じ、祖父母に会いたいと思いました。

「情熱」を読んだ時、「満天の星空をみあげ、自分だけの星をさがす。」という所から、自然の中で星空を見上げて自分にしか見つけられないものを探す人をイメージ

しました。自分もこうなりたいと心に響いてきました。

「満月」は短い詩だけれど、情景が脳内にスッと入ってくる位美しくして楽しそうな声が聞こえたような気分になります。「天の食卓」という言葉選びもきれいだなと感じました。

●筑波大学附属聴覚特別支援学校
嘘の種（梅原ひとみ）

しんぱい しあわせ（林佐知子）

満月（三好清子）

①「子どもを裏切つてはいけない」という始めの言葉が心に残りまして。「嘘の種」と比喩が使われていて、読む人の心に訴えるような感じが伝わってきました。

②「しんぱい」と「しあわせ」だけれど、同じ「ひかりへ」というところが心に残りました。対句が続いていて、最後には違うものと同じところへ行けるという感じが心に響きました。

③夜だけと明るくて楽しい感じが伝わってきます。「友を誘ってみないか」と問い掛けるところがとてもにぎやかで楽しそうだと思います。

●筑波大学附属聴覚特別支援学校
失言（大楠翠）

偶然（常田久恵）

不眠症（星野良一）

「失言」後悔している心情がとても分かりやすいです。私も口下手で、言葉選びを間違えて相手を傷つけてしまうことがあります。その時は、正にこのような心情になるので共感しました。

「偶然」哲学のようで一番印象に残りました。偶然は必然と聞いたことがあります。「生きるも死ぬもかけがえのない偶然」がとても響きます。この詩のおかげで後悔しないように過ごしたいと思いました。

「不眠症」当たり前のようで当たり前ではない。私も何も考えずにご飯を食べています。しかし、そこには幾多の命があることを忘れずに「いただきます」「ごちそうさま」を言います。言葉が見つからずに悩むことに共感したので、選びました。